

中田さんの学級では、最近のニュースから興味をもったことについて調べ、新聞にまとめることになりました。次は、中田さんのグループが「トキ」についてまとめた【新聞の一部】です。これを読んであとの問いに答えましょう。

【新聞の一部】

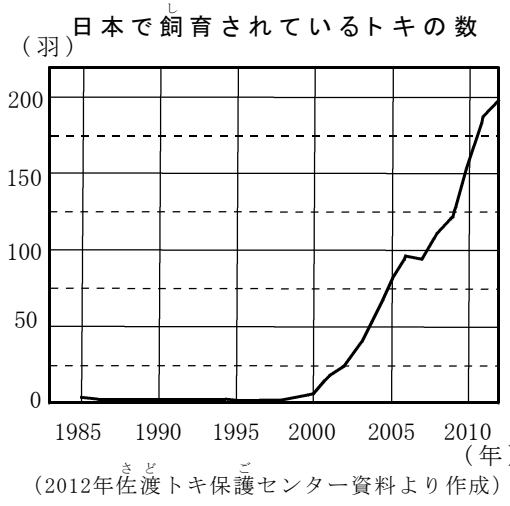
トキ新聞

平成二十四年十二月五日
五年一組 北西 中田
高山 山村

A

トキは、日本を代表する鳥で、ニッポニア・ニッポンとも言われています。顔と足が赤く、サギに似た鳥です。特に独特のうすもも色をしたきばれいな羽の色は、とき色と呼ばれています。長い間、絶滅の危機にありましたが、日本では、今から百五十年ぐらい前まで全国にたくさんいたトキが、減っていき、日本のトキは急減してきました。最後のトキも死んでしまいました。中国からトキを借

りるなど、さまざまな努力により、現在日本では、トキの数は二百羽までにふえてきています。



トキが減った理由

- 羽が、工芸品やほうき、ふとんなどに使われた。
- 食用にされた。
- 木が切られて巣を作ることができなくなりました。
- 自然かん境がこわされたり農薬の使用がふえたりして、えさとなる小さな生物が減った。



トキを守る①

新潟県佐渡島の「佐渡トキ保護センター」を中心に、中国からトキを借りて、次のようにならまいます。活動が続けられ、管理がよくなるように、野生のトキが生まれるのを待ちます。訓練した後は、野生のトキが自然にもどす。(27年ぶり)

トキを守る②

ニューズにも取り上げられています。トキが住みやすいかん境を作るために、地元の小学生も大人も協力して次のような活動をしています。田の整備に使って、きれいな川を作ります。トキが巣を作るための木を世話をします。

トキについて調べた感想

絶滅つするかもしれないな、トキがふえてきたのは、佐渡トキ保護センターと住民による二つの活動があったからだと思いました。その活動とは、

B

トキ保護の年表

1960年	トキが国際保護鳥に決まる。
1967年	トキ保護センターを建設。3羽の飼育を開始する。
1999年	中国から2羽を借りる。中国から来たトキにヒナが1羽生まれる。
2003年	日本産最後のトキが死亡。
2006年	18羽のヒナが生まれる。
2008年	10羽のトキを自然にもどす。(27年ぶり)

※国際保護鳥
世界で保護すると決めている鳥



エサは、小川や田んぼに
いるかえるやどじょう、
小魚だよ。

多くの人がトキを守るために努力していたので、びっくりしました。トキが住み続けることのできるかん境は、多くの生き物にとっても、人間にとっても、安心できるものだと思いました。

一 中田さんは、新聞の **A** に見出しをつけようと考えています。あとの**1**から**4**までの中から、もっともふさわしいものを**一つ**選んで、その番号に○を付けましょう。

- 1 絶めつした日本のトキ
- 2 再びふえ始めたトキ
- 3 羽がきれいなトキ
- 4 昔はたくさんいたトキ

二 中田さんは、【トキについて調べた感想】に、トキがふえてきた理由として、二つの活動があったことを書きました。**B**の中には、どのような内容を書くといいですか。あとの【条件】に合わせて書きましょう。

- 【条件】**
- **【新聞の一部】**の記事の内容をまとめて書くこと。
 - 「その活動とは、」に続けて書くこと。
 - 三十五字以上、五十字以内で書くこと。

※書き始めは、一ます空けないで書きましょう。とちゅうで行を変えないで書きましょう。

その活動とは、

35字	
50字	